

神奈川県演劇連盟機関誌

# ドラマ神奈川

第 8 号

# グラフィティ県連

## 横浜アマチュア演劇連盟所属 5劇団の空前のバトルプレイが 今、はじまる

### 公演スケジュール

横浜アマ連合同公演 9/28(土)PM  
2:00&6:30 29(日)PM2:00 テア  
トルフォンテ 大橋泰彦/作 濱田  
重行/演出『ゴジラ』

劇★派事ム所 10/10(休)7:00, 11  
(金) 10, 12(土)2:00&7:00, 13(日)  
2:00&6:30 相鉄本多劇場 祭山  
寸花/作 演出『瞬く人々』

劇団蒼い群 10/12(土)6:30, 13(日)  
1:30 横須賀青少年会館 松沢佳  
子/作, 河崎益通/演出『生きて想い  
をさしようより』お夏西鶴願末記

劇団こゆるぎ座 10/26(土)6:00  
27(日)1:00 小田原市民会館 後  
藤翔如/作 『いろはにほへと』

ドラマ神奈川テント劇場ラリー  
11/2~3 劇団麦の会及び劇団横浜  
にゆうくりあ、G/9プロジェクト  
合同公演 11/4県演劇連盟プロ  
デュース公演(詳細は事務局へ)

劇団河童座 11/16(土)6:00 17(日)  
1:00横須賀青少年会館 11/30(土)  
2:00&7:00 12/1(日)2:00 相鉄本  
多劇場 横田和弘/作・演出『平成  
火の鳥伝説』

劇団かに座 11/22(金)7:00, 23(土)  
2:00&7:00 24(日)2:00 相鉄本多  
劇場 ジャン・ラシーヌ作 内藤  
濯/演出『フールドル』

横浜にゆうくりあ 11/23(土)1:  
00&5:00 横須賀青少年会館『モ  
ノログの可能性PART II』

劇団LA TERRA 11/23(土)  
1:30 茅ヶ崎市文化会館小ホール  
ミュージカル『森と空と少女と』

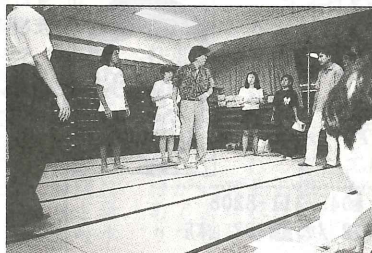
川崎演劇塾 12/6(金)7:00 7(土)  
2:00, 7:00 8(日)2:00 相鉄本多  
劇場 津田英三/作『大地から、  
そして太陽へ』

プロジェクト夢樹 12/7(土)7:00  
8(日)1:00 横須賀青少年会館 別  
役美/作 吉本敏克/演出『この道は  
いつか来た道』

横浜にゆうくりあ 12/14(土)15  
(日)相鉄本多劇場 泉谷涉/作・演  
出『横浜スタジアムの青春No.2』

劇団蒼生樹 12/20(金)7:00, 21(土)  
2:00&6:00, 22(日)2:00 教育文化  
ホール 吉永仁郎/作『季節ははずれ  
の長屋の花見』

G/9プロジェクト 12/21~23  
S T スポット『ミスキャスト'96』



○横浜アマチュア演劇連盟所属5劇団の精鋭たちがフォンテに集結。空前のバトルプレイが今…はじまる。

○「各劇団もちより一幕もの一挙上演」から「2劇団合同公演2本立て」を経て、ついに5劇団合同公演が開催される。演劇論、方法論の異なる劇団が創り上げる舞台に熱い期待がもたれている。

○顔合わせから1ヶ月。キャストもスタッフも決まり、今、まさに走り出したところ。出演者は初顔合せということもあり、まだまだお互いに遠慮がみられ、本領を発揮しきれていない様子。演出の濱田氏のカツがとぶ。「もっと意気込みをみせろ。合同公演の意味がない」この演出のエネルギーに役者が爆発する日も、もう近い。

○テアトルフォンテの広い舞台上で動きまわられるし、装置等いろいろ工夫ができるので、面白い舞台空間が生まれそう。スタッフ総勢60名に見守られ、本番をあと、1ヶ月後に迎える。全ての役まわりで各劇団の個性と個性がぶつかりあい、活力あふれる舞台を成功させてほしい。

○題目も各劇団の点数性で決定等、5劇団の意志を重視してのスタート。

## ドラマ神奈川・テント劇場ラリー

### 【花組】いよいよスタート

神奈川県演劇連盟の初プロデュース公演の準備が始まりました。一般公募による初顔合わせが8月16日県サポートセンターにて行わ

れました。中心の劇団は「劇★派事ム所」。作、演出に祭山氏。参加者の顔ぶれは厚木・川崎・横須賀・三浦・鎌倉・

横浜と広域。フリーもいれば劇団所属もいる、魅力あふれる人材が顔をそろえましたがちょっと男性不足。テント劇場を考えるとまだまだメンバー不足しています。新しいチャレンジが出来る「花組」にあなたも参加しませんか。連盟では二次募集も始めました。

祭山氏談話。「テーマは、宮沢賢治を中心に置きながら、現代の社会に圧迫されてしまう感受性豊かな人々の励ましになるような芝居ができれば……。ワークショップを続けながら作り上げるつもり」。期待して下さい。









1. シンドラーのリスト、友達の家はどこ(伊藤 隆)
2. 人間の絆(モウ)、山崎周郎の作詞
3. モジリアーニ
4. ウン最近おれないなあ
- 5 「バックナズミと人間」ワシワシ好ミルン







川崎演劇塾 8044-951-9819  
214・川崎市多摩区寺尾台2-8-1-12-504 柳坊

1. 耳をすれば、サブリーナ
2. 青い城(L.M.モゴリー)
3. ゴッホ、片岡 珠子
4. 夢中に行動している時
5. ほほえみの国、真夏の夜の夢  
ベストサイドストーリー



湘南ミュージカルシアター 80467-85-4313  
253・茅ヶ崎市ひばりが丘1-10 前田方

① 「12モンキーズ」 とりあえず、サイケン 見たモノゾク...	② 「下ごしらえするよ」マス...
④ 夜中にゴキブリと 聞いているとき。 	③ いろいろですが... 決められます 
だれも思いつかない おんなもの。 	⑤ 

G/9プロジェクト ☎045-716-5279  
〒232 横浜市南区南太田4-38-27 喜楽荘106号

1. 「ふじとび」(ボランスキー)
2. 「山の音」(川端康成)
3. エゴシラセ ウィンダッシュのクワイート
4. 夏の甲子園 高校野球の  
決勝戦、二死満塁の場面
5. 白黒映画のような時代、セピア、  
一性を持った作品(はずがし...)  
横波のうた(あじあ、泉谷 洋)



劇団横浜にゅうくりあ 8045-321-1920  
220・横浜市西区中央1-30-17

- ① 映画はあまり観ませんがあえて記せば  
「蔵」かな
- ② 少年時代に良く読んだ少女小説
- ③ 15年前上演した「女の人」以来だから  
彼の絵と生括史
- ④ ケイス・バイ・ケイス
- ⑤ 素晴らしい感童かに身振  
いする(させてくれる)作品



劇団こゆるぎ座 80465-22-2988  
250・小田原市本町2-2-20 梅月食堂内

1. アーサー・ワットマン
2. 阿部公房、筒井康隆、P.コニウエル
3. 榎方志功 シヤガール (最近では...)
4. スポーツを123時観て3時
5. ....



劇団河童座 ☎0468-23-7443  
〒238 横須賀市日の出町2-6

1. さいバル映画・小澤作品「晩春」原節子の演技。
2. 高橋 浩作「さまよう霧の恋歌」
3. シヤガール。
4. 自分の場合も他者について、好きな集まり  
を感懐して
5. フォント・マイルダ作「わが町」



劇団麦の会 8045-241-2828  
220・横浜市西区伊勢町1-61 高津方

1. カサブランカ
2. 特になし
3. ゴッホ
4. ケネプロの時
5. 作家いえば、清水邦夫



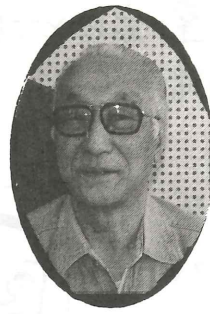
劇団夢樹 80468-66-4013  
〒239 横須賀市大津町4-43 (☎0468-36-7494) 代表 吉本敏克



# 特集

## 私たち こう

### 市民演劇 とは



劇団麦の会  
高津一郎

## ■「市民演劇」について

私には二種類の大変に異質な演劇  
 年敗戦後の中国での歩兵部隊におけ  
 一四七年から現在にいたる「都市  
 演劇」の体験があります。これは、  
 今その詳細にふれることはできま  
 せんが、この「軍隊演劇」は多くの  
 兵士たちを戦地から故郷に復員させ  
 するための心の準備をうながす演劇で  
 した。そして後の「都市演劇」の方  
 は、長期にわたりますから状況の変  
 動に対応してその志向が推移してき  
 たところがありますが、今わたりと強  
 く云えるのは、都市生活がもたらす  
 避けがたい抑圧の中で傷つき病む私  
 たちの心を癒すこと、そういう役割  
 りが演劇に課せられつつあるのでは  
 ないかということですが、  
 この二体験が演劇にかかわる事柄  
 を考える場合の私の土台となってい  
 ます。

名は体を現わすと云いますから、  
 私は自分たちがやっている演劇をそ  
 の実体に即した名称で呼びたいと願  
 っています。そのような私にとつて  
 いふ、ん望ましい呼び方が「市民演  
 劇」なのです。そこで実体をどうやっ  
 か、と云うことになり、一つは、一  
 つには次のような三つの条件に照し合  
 わして、三つの条件とは、「場」と「主  
 体」と「時代」のことです。私たちが生  
 きているのは横浜と名付けられた大  
 都市であり、次に麦の会をになう主  
 体は「作る側・見る側」共に都市の  
 住民である「市民」です。そして時  
 代はまぎれもなく90年代と呼ばれる  
 現代です。以上三条件をみたすかたちで私  
 たちが提示できるのは、「現代の大都市  
 横浜で生活する市民が演じる演劇」  
 要約すれば「市民演劇」ということ  
 になります。

もちろんこの言葉の内部には、ア  
 マチュア演劇・公共演劇・地域演劇  
 ・サークル演劇などの名称をつくり  
 あげた考え方も含まれていますが、そ  
 れは大事にしたいことです。

者たちが演劇することの源泉とな  
 るエネルギーを汲みあげてくるのは、  
 市民生活という日常的現実とそこに  
 二つの側面をもつ世界的変動との  
 衝突をぶつけてくること、新しい  
 私たちはその波動をヴィヴィット  
 に受止めて演劇をすること、新しい  
 カラダ・カンセイ・イメージ・リズ  
 ム・ゴウゾウなどを自分たちのもの  
 にしてまいりました。

このようなプロセスをへて生みだ  
 された「市民演劇」であるから、そ  
 単なる娯楽には終わらない、もつと市  
 民の心の深部にかかわる仕事として  
 その心を開き、楽しませ、慰さめ、  
 らしかしたら都市の重圧に痛みつけ  
 られた人々の心の癒しとなることも  
 まで演劇を昇華させようというこ  
 為し得るのではないのでしょうか。  
 これは幻想にすぎないでしょうか。  
 こんで、いつまでも持ち続けたい想  
 いです。



麦の会  
「蜂の巣」  
6月8日9日  
関内小ホール

麦の会公演「蜂の巣」を観る。作者は若手のホープ  
 TAKEHIRO氏だ。映画「明日に向かって撃て」からのモ  
 チーフか。「男の芝居を書きたかった」(公演パンフ)と  
 のこと。成程、硬派の男性イメージがしっかりと構  
 築されている。台本の骨格もしっかりしている。強盗  
 を働らいた男たちのドラマを縦軸に進行させ、〈黒い  
 影〉を横軸に象徴的に入れる所など、単なる筋もの  
 にならず成功していると思う。象徴的といえば、ドアを  
 真中に配した舞台セットも、それが、成功と絶望の或  
 いは生と死の、その他諸々の二面性の出入口を雄弁に  
 表わしていて、面白い。

気になった点はやはり「女」か。「男」の芝居を描  
 くということは、「女」をどう扱うかということだろ  
 う。そこの所は少し雑駁だった。それと、山口君の演  
 技。この劇場では細か過ぎて却って伝わって来ない。  
 小劇場の真近く観れたら良かったのに、と思った。  
 (担当 劇★派事ム所)



京浜協同劇団  
「父が帰る家」  
6月21日～30日  
劇団稽古

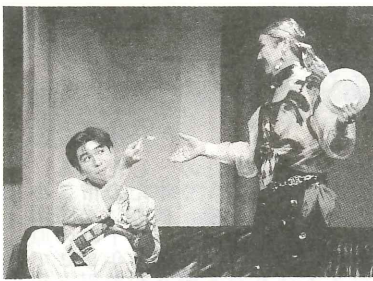
「新しい稽古場完成」の話聞いて、以前からは非一  
 度覗いてみたいと思っていたが、今回幸いにもその機  
 会に恵まれた。稽古場自体が地域に馴染んでいる為か、  
 不思議と客席が寛いだ雰囲気だった様に感じられた。  
 公演は、妻子を捨てた男が28年ぶりに年老いて戻っ  
 て来たが、半身不随の上に無一文。70才を過ぎた妻が  
 様々な葛藤の末、最終的には、その夫を受け入れるの  
 だが……。果たして彼女にとって、それが最良の選択  
 であったか否か。という想いが、観た側には最後まで  
 残される。夫の裏切りを許す、許さないという問題も  
 さながら、体に障害のある家族を支える事の重大さ。  
 これからの高齢化社会に向けて増々身近になってくる  
 作品だと思う。

又、稽古場の下階に今回の内容に関連した老人養護  
 のパネル展示等があり、芝居を観るに当たって、更なる  
 効果をあげている様に思った。地域に根ざした稽古場  
 から、今後も素晴らしい作品が生み出される事を期待  
 している。  
 (担当 劇団葡萄座)









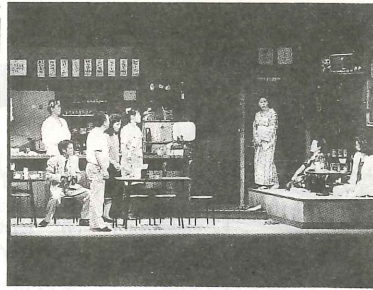
# 葡萄座

「ラン・フォー・  
ユア・ワイフ」  
6月29日30日  
教育文化ホール

葡萄座が創立50周年記念公演の一つとしてこの作品を取り上げた勇気に敬意を表します。当世はやりのズッコケやシャレだけで笑わせる芝居とは違い、登場人物とその行動をきちんと把えて表現することで、置かれている状況のズレをカバーしようとする必死の行動が、かえって観客の笑いを生み出すという、本来の「喜劇」に真正面から取り組み、多少さこちない所があったとはいえ、十分に観客を楽しませた。

主人公スミスの大奮闘は、のっぴきならない状況を一時的にはしのぎながらも、やがては自ら掘った墓穴に落ち込まざるを得ない状況をおかしくみせてくれたし、二人の妻やからみの登場人物も配役の妙をみせてくれました。ベテランに混って良いキャラクターを持った新人の登場も嬉しい限りです。欲を言えば、メアリーの衣裳にもう一工夫ほしかったことと、スミスの鼻の通りが悪いのが気になりました。

(横浜小劇場)



# 蒼生樹

「逞しき女々」  
7月19日～21日  
教育文化ホール

いつもながらの蒼生樹の味のある芝居、というのが見終わったあとの感想。いつもながらの個性的メンバーが主であったこともあり、演技も達者でそつなく、セリフも間のとり方も相変わらず手慣れたもので、楽しく観させて貰った「逞しい女々」であった。

ただちょっとひっかかったのは、面白かった。楽しかったのは全くそのとおりなのだが、そのなかでもひとつ物足りない感じが残ったことであった。作品からなのか、舞台の創り方からなのかは分からないが、多分これは居酒屋の女将が中心となって現代下町の元氣ある女性達が描かれてはいるが、その生活があまり見えなかったからではないかと——。女将「なつ、さん」も人の好いおばあちゃんとしては好演だったが、居酒屋を営んでいる生活がもっと見え、フィリピン人マリアのことなどの現実感が、その他の女性達を含み、と湧出されたならば、物足りない感じなどどこかにぶっこんでしまったに違いない。(担当 劇団かに座)

## 理事会報告 劇団かに座 田辺晴通

みんな機関誌を見ているか、理事会報告を読んでいますか。各団体の幹部が神奈川の演劇のため連帯感を高めつつ行動を起こしているの十分に読まれることを期待し、8月5日開催した理事会の概要を報告します。

1、県知事あて要望事項最終案の決定について  
今回は、この最終案の検討と決定が主議題であり、標題を「平成8年・演劇文化振興に関する要望書」として、要望項目は次のとおり。

- ① 横須賀青少年会館存続問題～足柄地区でも青少年会館存続についての署名運動がなされ県知事あて要望がなされたとの記事があったが、(紅ヶ丘をはじめ他会館設置地域でも存続運動が行われている)こと横須賀だけの問題でない認識を。なお横須賀だけをとりあげれば8月中には市移管の結論が出るようであった。
- ② 県演劇フェスティバル助成金の増額～マイナスシーリングの標的は我々のようなところから始まる。演劇組織の強化を図るために今以上の後退があってはならないので、500万の増額要望をしたこと。(平成7年から120万(それまでは150万)となっている。毎年の要望事項である。)
- ③ 県演劇連盟40周年記念公演のための予算化～県から合同公演の要望がなされていることに関して、平成12年には県演連も40周年を迎えるので、これを機に計画することを申し述べ、伴う1200万の予算化を要望。(9月から始まる(まった)県文化財団の演劇等のワークショップの予算が3000万ダト)
- ④ 紅葉ヶ丘再開発についての要望～前回も述べたが、現在は凍結の状態のことだが計画が進行する際には②ホール設置及び小劇場の併設
- ⑤ 再開発検討委員会等に県演連代表者を委員として参加させること、を要望。
- ⑥ 神奈川県が募集する脚本コンクールについて～受賞作品の上演に対しては上演委託料が予算化されていたが予算削減のありを受けて本年は予算ナシとなった(蒼生樹上演には別途予算科目から一部はフォローされたが)ことについて復活の要請。
- ⑦ 民間施設の利用に補助を～県演連加盟団体が多く使用する相鉄本多劇場について検討を要望。

要望事項は以上のとおりであるが、本要望書については8月13日、飯田理事長ほか4名が県文化室に赴き提出した。又機会を見つけて文化室長との懇談も約した。

- 2、本年度神奈川県演劇フェスティバル参加団体と演目・日時・会場の確認。
- 3、「ドラマ神奈川・テント劇場ラリー」について。
- 4、「三浦半島演劇祭」について

上記2～3議題についてはそれぞれ別掲又は報告される筈なので省略するが、テント劇場ラリーは、MM21地区にテント小屋を建てての、10月1日から11月15日までの間催される「アートライブよこはま」の一環として催すもので、県演連プロデュース公演もあるとの各位の積極的協力をお願いしたい。3公演共通券も発行されることになっている。

このほか、「ドラマ神奈川」8号について「'96横浜演劇展」(9月25日～9月30日、テアトルフォンテ)等について話し合いがなされた。

以上



# 川崎演劇塾

「ラブソング・  
恋歌が  
きこえる」  
8月2日～4日  
ひとみ座  
スタジオ

カッチリとした新劇の色調濃く、ストーリーも解り易いものでした。それだけに軸となっている三人の登場人物の心の動きが大切に描かれていたと感じました。後半、ウエットすぎるのでは?と感じた部分もありましたが、今の時代なんとなくカッチョ良く、氣よくという芝居の多い中で、本気で、全力で、精いっぱい芝居を観せて頂きとても清々しい気分になりました。

一番印象的だったのは、お客様がとても自然に芝居を楽しんでいた事です。何かを食べるシーンでは「あら美味しそう。」と声が出たり、登場人物が死んでしまうシーンでは、あちこちで「死んじゃったの?」ときさやく声が出たり、声を出して笑い、そして泣き。ふと大衆演劇という言葉の思い出しうれしくなりました。(にゅうくりあ担当)

### 〈訂正〉

7号、G/9プロジェクトの「がつん」は「MOON」の誤りです  
劇評コーナーでの作品名の誤りです

## 編集後記

合同公演、テントラリー、三浦フェス等々いくつ企画をたてても追いつかないこの秋。「楽しんで満足してます」と答えた若いオリンピック選手たちのコメントとは一味違う答が求められている。

苦手な夏が終りこれからは芸術の秋...etc やりたいこともやらなければいけないことも山積みです。とにかく頑張れ!!と自分に言う毎日です。 菊・自

編集に要望を!記事に意見を!読者の皆様お寄せ下さい。しかし、色々な劇団と交流できるようなったのは嬉しい。 演劇塾・団